

日教組第59次教育研究全国集会報告書
第2分科会 外国語教育

4 技能を高めるための教科書指導の工夫 ～ Reproduction から発展的な教科書活用への展開～

研究の経過と概要

- 1 報告書ができるまで
- 2 第59次教育研究静岡県集会で論じられた問題と今後の課題
- 3 報告書作成協力委員

本文

- 1 テーマ設定の理由
- 2 実践内容
 - (1) 教科書を扱う上でおさえたこと
 - (2) 教科書本文指導時におこなったこと
 - ① 教科書本文は oral introduction で（教科書は開かせない）
 - ② 教科書本文の summary （教科書は開かせない）
 - ③ 音読活動の工夫
 - ④ reproduction までもっていく教科書指導
 - (3) 教科書の本文理解後の活動
 - ① 本文を読んで、不明確なことについて質問をする active reading
 - ② 本文に関する質問を生徒が作成する make questions
 - ③ 本文の内容の続きを考え、original story を作成する活動
 - (4) 教科書の単元終了後のまとめの活動
 - ① テーマに沿った story を作成する活動
 - ② 自学ノートでの英作文・日記の奨励
 - ③ 聴き手を意識して本文を読む reading show
- 3 まとめ
 - (1) リプロダクションまでもっていく過程に関する意識調査とその分析
 - (2) 成果と今後の課題

静岡県教職員組合

柳瀬 昭夫 (やなせあきお)

掛川市立栄川中学校

1 報告書のできるまで

「言語は文化である」という考え方から、外国語の学習を通して自己と他者を尊ぶ姿勢を育て、国際理解の土台を培う。そのため、4技能を関連させながら、英語のコミュニケーション能力と積極的に自己表現する態度を育成する。このような考え方から、基礎・基本の定着から出発して、適切な中間ステップの活動を工夫し、3年間を見通した最終目標につなげる指導をめざして以下のことを大きな視点として研究をすすめてきた。

- (1) 「実践的コミュニケーション能力」を育成するための指導の工夫
- (2) コミュニケーション能力育成に向けての3年間を見通した授業構想と教科書配列の関係
- (3) 世界に開かれた指導の工夫

2 第59次教育研究静岡県集会で論じられた内容と今後の課題

各地区の実践報告は、主に、上記視点(1)について、方向性がはっきりした報告であった。その中で、①言語材料の基礎・基本の定着とコミュニケーションへの意欲の向上を図る指導の工夫、②実践的な力（読む・聞く・書く・話す）を育む指導、効果的な学習形態、個への支援、達成の確認や評価の工夫、③小学校での英語活動を、中学校での英語学習でどう生かすかという3つの柱の下での研究発表が行われた。

①、②についての発表では、warming-up、タスク活動の工夫、「問い合わせ」を活かした問題解決的な授業づくりへのアプローチ、個の表現を豊かにする reading 指導の工夫、reading から speaking によるコミュニケーションにつなげる指導、4技能を高める教科書指導、基本文の定着テスト、静岡県版カリキュラム（静岡県教育委員会発行）を基にして構成された言語活動、言語能力を高める学習サイクルなど、全体的に個人で考え、級友と協力し合いながら行うコミュニケーションを意識した活動が論じられた。また、定着度の確認を定期的に行い、授業にフィードバックしていくことの必要性も討議された。中高教員交流授業の実践発表もあった。③としては、新学習指導要領の施行により、小学校での外国語活動として、コミュニケーション能力の素地を養うための小学校での実践や、中学校入門期の指導の工夫の実践報告があった。共有できる教材を準備する、英語教室の設置などの環境整備の他に、人的環境として小学校と中学校を結ぶ教員の存在と役割や、連絡会議の実施の成果や必要性などが論じられた。

今後の課題は、特に総括討論の中で討議された。基礎・基本の習得の仕方の工夫によって実践的なコミュニケーション能力までにつなげていくことができる教授方法が論じられた。そこでは、4技能のバランスと関連を考えて、今後も「教えて考えさせる」というプロセスを含んだ問題解決型のような授業、例えばタスク活動が必要であること、現在、定着度が低いとされる writing の力についても、書き手が読み手を意識して書くことでコミュニケーションを行うことができるような活動や教員が writing を励ますような添削を行うような指導や支援がさらに必要であることなどが挙げられた。今後は、小学校・中学校の連携が急務であり、小学校では外国語活動を発達段階に応じて行い、中学校入学時の英語学習にスムーズに繋がる橋渡しの指導を小・中の教師が連携して行うことが、早急に必要になってくるであろう。

3 報告書作成協力委員

柿野博信（浜松・三方原中）植松宗一郎（富士・大富士中）堀場秀子（清庵・清水庵原中）
原田知哉（東豆・小嵐中） 山田義文（清庵・清水第一中）三浦 孝（静岡大学）

本文

1 はじめに

現行学習指導要領において、「実践的コミュニケーション能力の育成」が求められた結果、言語材料をもとにした様々な対話活動やアクティビティーが、活動の中で多く取り入れられるようになった。しかし、基本的な語彙や文構造を活用する力が十分身に付いていない、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力が十分身に付いていない状況なども見られるといった課題が残っている。

これらの課題を克服していくためには、Type A Syllabus（言語は、その構成要素をいくつかの部分に分割し、それを一つ一つ積み上げてゆくことで最も効果的に習得できるとする立場）に則って作成されている教科書を、これまで以上に有効活用していくことが大切であると考える。なぜなら教科書は、有益な表現が多く含まれた生の言語データだからである。教科書の各ページの文章が言え、文構造を理解した上で英文で書き表せることが、自分の言いたいことを言えるということに直接結びつけていくことが重要であると考える。

そこで、教科書本文を input から intake するところまで引き上げたあと、本文に追加の情報を創作して発表し合ったり、教科書のスキットから関連質問する活動を行ったりするなど、教科書の内容を生徒の興味にあった内容に発展させ、creative に使用することを心掛けた。

これにより、4技能を総合的に高めるとともに、教科書 Syllabus で学んだ項目（語彙、音声、文法、語順、言語材料など）が発信型の活動（スピーチ、英作文）において、より生かされるのではないか、と考えた。

とは言え、現在の教科書は、読み物としての各レッスンに加え、話す活動、聞く活動、書く活動などがはさみ教材として組み入れられており、あまりに細分化されているが故に、「教科書は一通り流してゆくだけで時間一杯」で、各レッスンの本文は新出単語を確認した後本文を読み、概要を把握したら comprehension test を行う、といった流れが一般的になっている。せいぜい時間をかけても「暗唱」活動を行うくらいまで、という傾向が多く見られる。

コミュニケーション活動はいろいろ考えていても、教科書に入ったとたん、つまらなくなってしまう、といった悩みも聞かれるようになつた。

教科書は一番身近な基本の教材であり、しかも基本がつまっているのであるから、学習に有効であることは言うまでもない。その意味で、本文の内容を十分習得させていくことは大変重要である。しかし、それを「かけた時間と量で勝負」だけで済ませてしまうのは、いささか乱暴な気がする。時間や労力をかけた分、それに見合った学習効果が生徒の中に残る方法を、教師は勧めるべきであると考える。

本実践では、生徒が生言語データを効果的に身につけ、かつ、意欲的に英語学習に取り組んでいけるようにするための手段として、教科書をどのように扱っていけばよいかに焦点を当てて取り組んできた。

2 実践内容

(1)教科書を扱う上で押されたこと

- 教科書の生言語データをしっかりと生徒の頭の中に残し、その英文やルールなどの骨組みをほとんど無意識に取り出して使用できるようになることをめざし、活動を展開する。

このために、(1)教科書本文の内容を理解させる活動、(2)教科書本文を理解させた後の活動の2段階を設けた。

(1)教科書本文の内容を理解させる活動…音声→文字という言語習得の過程を大切にし、理解しやすくすることをめざした。これにより、話す活動などの発信型の communication 活動で、文法にあまり意識を向けなくても対話に interactive に参加することができると考えた。

(2)教科書本文を理解させた後の活動…生徒が意欲的に参加できるような活動内容を設定することで、意欲的に教科書を何回も読ませることをめざした。これにより、本文の英語が頭の中に残るようになると考えた。

生徒が教科書に親しみをもち、継続して有効活用できるよう、以下のような実践を行った。

(2) 教科書本文指導時に行つたこと

① 教科書本文はoral introductionで(教科書は開かせない)



導入の場面では、言語習得の過程に従い、音声から導入する。用意するピクチャーカードは、本文の内容に沿ったものとなるよう、教材用 PC につけ加えて画用紙で絵を用意した。左図は、New Horizon English Course2 の Unit3、"E-pals in Asia"で導入時に用いたピクチャーカードである。新出単語については、一度口頭で導入した後、できるものについては paraphrase をしたり、示している絵を提示したりして理解を助けるようにした。

② 教科書本文のsummary(教科書は開かせない)

Cool and Lucky are (e-pals).
Cool lives in (Korea) and Lucky lives in (Thailand).
Comics are very (popular) in Korea and in Thailand.
Lucky's school have a (manga)(club).
Many people read comics.
Sea is 17 and she lives in (China).
The word manga comes (from) the Japanese language.
Hong Kong hosted the (fourth) Asian Manga Summit.
Many people talk (about) manga culture.
Manga (tells) us about (different) cultures.

教科書本文の summary の一部を空欄にし、それらを埋めさせる活動を行った。空欄にする語(句)は、本文には書かれていないが概要を把握していくれば必ず意味がわかるものを選んだり、前置詞や助動詞など生徒が苦手としている部分を中心に選んだりした。また、新出語を選んで音から文字へつなげる活動にすることもあった。左図は、Unit3 で行った summary の例である。ここでも、教科書を開かせないで穴埋めをさせたため、生徒は黒板の絵を見ながら概要を考え、何度も文章を読み返して空欄を埋めなければならない。

Unit 3

E-pals in Asia ②

Class() No.() Name()

★ Summary ★

Sea is 17 and she lives in ().

The word *manga* comes () the Japanese language.

Hong Kong hosted the () Asian *Manga* Summit.

Many people talk () *manga* culture.

Manga () us about () cultures.

★ T or F ★

- ① Sea is a junior high school student.
- ② There was a *manga* summit in Hong Kong.
- ③ Sea tells about different cultures.

①	②	③
---	---	---

★ Q&A ★

- ① Where does Sea live?
-

- ② Does she know the word *manga*?
-

- ③ Where did they have the fourth Asian *Manga* Summit?
-

- ④ What can *manga* tell us?
-

③ 音読活動の工夫

ア 導入時のbackward reading

長い文の読みを chorus で行っていて、途中から読みがバラついてくるような時に行う活動。例えば、In 2000 Hong Kong hosted the fourth Asian Manga Summit.という文であれば、

- a) Manga Summit
- b) Asian Manga Summit
- c) the fourth Asian Manga Summit
- d) Hong Kong hosted the fourth Asian Manga Summit
- e) In 2000 Hong Kong hosted the fourth Asian Manga Summit.

のようにリピートしていく。これにより、文末の語句を繰り返し読むことになり、最後まできちんと言えるようになる。教科書を開本しているときに主に使っている。

イ 十分な内容理解後のread and look up

内容を理解し、ある程度教科書本文が言えるようになってから開本し、音と文字をつなげる。read and look up では、一文ずつ本文を覚えてから、顔を上げて読みを行うようにする。ここでは、意味のまとまりを考えながら本文を言うようにすることが大切である。読むときに本文を見ることができないため、読むときの集中力が増していると感じる。また、1文ずつなので英語が苦手な生徒にとっても抵抗が少なく、1回ごとに達成感があると考える。

ウ reproductionにつなげるresponse reading

教科書を開本した状態で、CDや教員の音読を聞き、音読が途中で休止したら、生徒はその続きを文の終わりまで言う。言い終わったら続きを音読を聞き、また途中で休止したら続きを読む。その単元で学習する言語事項を用いている文章では、積極的に休止を入れるようにすると、学習した言語材料の確認の場になる。

エ リレー形式のindividual reading

個人で本文を読む時には、一回通り読んだら列の前の席に移動する。最前列で読み終わったときは、最後尾に移動する。こうして一回読むごとに座席を移動し、自分の席に戻るまでくり返す。列ごとの競争にすると、生徒は意欲的にとりくみ、時間も短くてすむ。開始前に不明な単語の読みについては確認するようにしておくと、きちんと読むようになる。

オ 3秒ルールのつなげreading

生徒は本文のどこでもいいので、一文挙手をして読む。ただし、3秒以内に誰かが手を挙げて、次の文の読みを行わなければならない。また、一人一度しか読むことができない。全員が読みに参加すること、本文の最後まで読み切ることが条件となっている。簡単な文だからと、一度に多くの生徒がそこで挙手をすると、本文の最後までたどり着く前に全員読み終えてしまうため、スリルがあり、楽しく reading ができる。

カ つなげpair reading

ペアで読みを順番に行っていく。交代する場所は、文のどこでもよい。交代して欲しいときは机をたたいて知らせる。間を開けずに読むように指示すると、ペアの読みを集中して聞

くようになる。

④ reproductionまでもつていく教科書指導

reproduction とは、教科書で読んだ本文のストーリーを、教科書やノートを見ないで自分の英語で再生していく活動である。音読で取り入れた語彙や構文などの知識を実際に使用することで、知識が intake されると考え、とりくんぐみた。ここでは、十分に内容を理解させることとともに、生徒がストーリーの流れを思い出しやすくするために、明確なヒントを与えることを配慮した。reproduction した内容は、隣の人に聞いてもらって確認したり、ボイスレコーダーに録音して自分で確認させたりした。



いくために行つた reading 指導の流れは上図の通りである。

また、セクションごとのワークシートには、必ず黒板に貼った絵と同じものを用意した。これにより、家庭での自主学習時に絵を見て文を再生する練習ができるようにした。

reproductionまでもつていくreading指導

開本したまま】

- ①PC+keywordsでoral introduction …概要把握が目的。簡単に。
- ②内容に関する日本語でのQ&A …内容に関するQ&A。
- ③flash cardで新出語(句)の確認 …概要から意味を予測させる。
- ④一文ずつ本文のrepeat …文法事項のポイントなどもおさえる。

開本】…音読

- ①chorus reading …大きな声で、リズムを意識して。
- ②individual reading …リズムよく、なめらかに。
- ③read and look up …意味のまとまりを考えながら。
- ④response reading …教師やCDに続いて素早く反応して。
- ⑤reproduction …ピックチャーカードを見て、教科書本文を再生。読みはペアで確認。分からぬ所はヒント。

リーフレット】

- ①summaryを見て空欄を埋める …綴りが分からぬ単語は予測。
- ②T or F, Q&Aをおこなう … 基本的には開本しておこなう。
分からぬ場合は開本してよい。
綴りが分からぬ単語は予測。
- ③本文writingをおこなう … 開本しておこなう。
終了したら、開本して綴りチェック。

(3) 教科書の本文理解後の活動

少しでも生徒の頭の中に本文を記憶させておくためには、繰り返し本文に触れさせることが重要だと考えた。そこで、生徒が意欲的かつ自然に、本文に繰り返し触れる活動を考え、実践してきた。

① 本文を読んで、不明確なことについて質問をするactive reading

Ming : You went to the Great Wall, didn't you?
Kumi : Yes, I did. It was huge.
Ming : Well, have you ever seen this?
Kumi : No, I haven't. What is it?
Ming : It's a photo of the Great Wall from space.
Kumi : Wow. I was surprised at its size.
I've never seen such a long wall.



教科書本文は、生徒が効率よく学習できるように作られており、文の量にも配慮されているため、内容が曖昧なことが多い。そこで、本文の内容理解を図った上で、不明確なことや知りたいことについて質問させる活動をおこなった。これにより、場面をよく考え、不自然なところやはつきりしないところを読み取ろうとすることができた。左図の課では、「なぜ Ming は、Kumi が万里の長城に行ったことを知っているのか?」や、「いつの間にこんな写真を用意したのか?」「Ming は Kumi のことが好きなのか?」などの疑問が挙げられ、全体で考えた質問を出し合う中で、楽しく活動することができた。

Ming: You went to the Great Wall, didn't you?
Why do you know that? Where do you know that?
Who do you hear that? What time is it now?
When do you know that? Do you like Great Wall?
Why do you talk about it?
Kumi: Yes, I did. I was surprised at its size. It was huge.
How have you feel about his question?

② 本文に関する質問を生徒が作成するmake questions

本文を読んだ後、① Yes-No question、② Wh-question ③本文に答えがない question の 3 種類の質問を生徒自身に作らせる活動を行った。作った後は、小集団(4人組)でお互いに質問を出し合った。③を作らせたことで、"Why did the master say、 "The pot is full of poison."?のような、"between the lines" question や"beyond the lines" question を作ることもできた。疑問文の作り方がよくわからない生徒は、教員や友だちからアドバイスを受けながらすすめた。質問に答えるためにも、互いに文法チェックを自然に行うようになった。

③ 本文の内容の続きを考えて、original storyを作成する活動

Master : I'm going away for two days.

An : Yes, master.

Master : See that pot? It's very important. Watch it.

Chin : Yes, master.

Master : But don't touch it. It's full of poison.

Kan : Poison? Poison!

Master : Yes. Poison. Don't look into it either.

An, Kan : No, master. We'll be very, very careful.

Chin : Good. I'll see you in two days. Goodbye.



★ Let's Make Your Original Question ★ ~ Question を自作してみよう! ~

① Yes-No Questions

- Does the master say, "Don't touch the pot."?
- Do An, Chin and Kan eat the honey?
- Does Chin say "Soon we'll die."?

② Wh- Questions

- Who knocked over the pot?
- Why didn't An, Chin and Kan die?
- What was in the pot?

③ 直接本文に答えがない Questions

- Why did the master say, "The pot is full of poison"
- Why did Kan think it's honey?
- Where did the master go away?

Let's Answer Your Friends' Questions

- ① Yes- No Questions
① No, he isn't. → いやさーん
- ② Wh- Questions
② Yes, he is. → かおりちゃん

② Ratna : Those cages are so small.

Ken : Yes. The large animals need more space.

Will they go back to the wild?

Ratna : No, they won't. Many animals have no homes in the wild.

Ken : What do you mean?

Ratna : Their homes and forests are disappearing. So they can't survive.



本文の内容理解が一通り終わったところで、登場人物である Ken と Ratna が 2 人で歩いている絵を提示し、"They had a date. By the way, what do you usually talk on a date?"と質問し、本文の不自然さに気づかせた。よく考えると、せっかくのデートだというのに会話を楽しんでいる様子は見られず、動物愛護の話に真剣になっているのである。これに気づかせた後、本文の前の部分「デートに誘う場面」、「デート中の会話」、「デートの後の場面」

のいずれかについて考えさせ、original story を作成する活動を行った。生徒たちは、教科書の他の登場人物も登場させながら、ユーモラスな文章を作成することができた。作成した後は、相互に読み合って投票を行い、5 Best Stories を決定した。生徒の中には、単元終了後の自主学習として、さらに続きのストーリーを作成する生徒もでてきた。

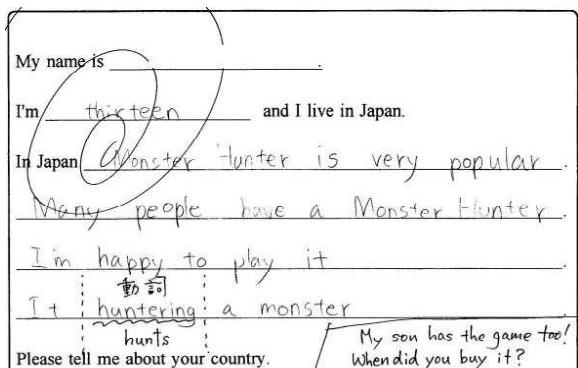
Kumi's birthday story part 7	
久美と健太 × えこちゃん そしてナリ。。。	
Ming & Paul & Emma : Stop!! (They separated Ken from Kumi)	
Ken : Ouch!	
Emma : Sorry, Ken! But it is for you!	
Ming & Paul : Kumi... Are you all right?	
Kumi : Yes... why do you ask me?	
Ming : If your mouth get dirty, what shall I do? I think it.	
Kumi : Ken isn't such a dirty man...	
Ming : I, I don't think so! He is my best friend!	

(4) 教科書の単元終了後のまとめの活動

せっかく教科書本文を intake するところまで学習しても、学んだことを output する機会がなければ、生徒は教科書を学習する有用性を見いだせない。自分の言いたいことや伝えたいことを表現する時に、教科書で学んだ表現を自然に用いることができれば、次の教科書学習を行う時のモチベーションを向上させることになると考える。

① テーマに沿ったstoryを作成する活動

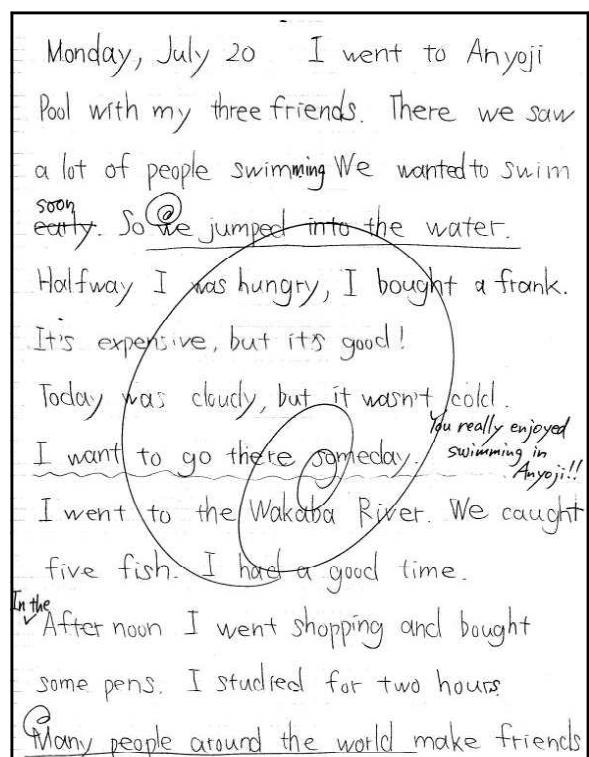
左図は、日本ではやっていることについて紹介のメールを書く活動で、生徒が書いた文章である。はやっている内容としては、「せっかくだから、自分の好きなテーマで書いてみよう」と指示し、芸能、スポーツ、ニュースなどのジャンルを提示し、辞書のみを使って個人作業で英文を作成させた。提出された物には、必ず内容に関するコメントを書いて返却するようにした。また、辞書で調べた単語については、words list に記入させるようにし、自分が興味をもっている内容について表現したい時には、いつでも振り返って参考にすることができるようにしておいた。



★ Words List ★

English	Japanese
Monster	怪物
Hunter	狩人

② 自学ノートでの英作文・日記の奨励



毎日の自学ノートでは、学習内容として
①単語や句動詞、慣用表現の徹底練習
②教科書本文のリプロダクション練習
③英語ワークの練習 をあげているが、チャレンジしたい生徒には、英文日記を書かせるよう
にしている。(資料7)は、ある生徒が書いた英
文日記である。この日記を書いた7／20の時
点で、教科書学習は Unit3 をちょうど終えたと
ころであるが、いくつかの文章で、教科書で過
去に学んだ文章を上手く用いて表現してい
ることがわかる。4行目で用いられている、

"So we jumped into the water."は、Unit1 で学
んだ、"Rio jumped into the water, too."(p.6. 1.4~5)
をうまく利用している。

このように、自分の言いたいことにうまく教
科書の文章を用いることができたものは、授業

の中で紹介し、教科書を身近な手本として感じさせるようしている。

③ 聴き手を意識して本文を読むreading show

Reading Show

◇実施日 7月1日(火)第3時

◇内容 教卓の場所で、教科書の自分の好きな箇所を割り時間内読み発表する。

◇発表順 先生が指示した順

◇読む箇所 教科書 p.2~p.24

◇評価の観点

- ①look-upで読んでいるか。
- ②声量、様々な言葉のつながり、リズムやインтонационが英語らしいか。
- ③内容を理解し、それが伝わるよう読みでいるか。

※当日は固定カメラを設置し、活動を記録する。

<発表の手順>

- ①発表場所に移動して自分の準備を待つ。
- ②前の人が終わったら素早く発表場所に移動し、読み始める。
- ③会話を終るまで、読み続ける。合図があったら途中でもやめる。
- ④読み終したら素早くその場を離れて次の発表者に譲る。

<注意事項>

- ①発表が終った後個人の練習を行わない。
- ②ロス・タイムを避ける。少なくとも2人は待機場所についている。
- ③発表態度も評価対象とするので、緊張感を持っていくこと。

*自分が選択した箇所を最高のレベルで読めるように十分練習すること。
その際には評価の観点に留意して練習しましょう。

Kellerman(1985)のU-shaped developmentで主張されており、教科書本文の言語データ運用力を高めるためには、繰り返しその本文に触れることが必要である。自主学習で触れさせることはその1つの例であるが、そのきっかけの1つとして、学期に一度reading showを行っている。これは、学習済みの単元の中から1ページを自由に選択させ、声の大きさ、速さ、イントネーション、音の明瞭さなどに注意して聴き手を意識し、productiveに本文を読む活動である。左図、実際に生徒に配布した文書である。

一人あたりの制限時間は30秒間。発表者のすぐ隣に2人ほど待機生徒として準備させておき、間をおかずにつなぎながら自分が決めたページを読んでいく。評価の観点の第1は「look-upで読んでいるか」とし、聴き手を意識して子はビデオに記録し、良かった生徒の発表は次の学年の生徒が見本として見て、聴き手は各項目についてABCの3段階で発表者の評価

4 まとめ

(1) リプロダクションまでもっていく過程に関する意識調査とその分析

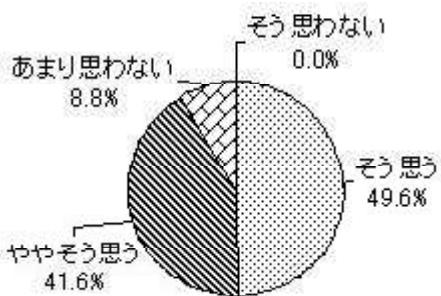
① 生徒の日記より

なぜかかからないと、なぜか書く方も
早く覚えらるだよなー。今頃書く練習
会員の「ENGLISH (英語)」で「ローリング」という法句
が生けて分かり方は、日本語で「えやおん！」
日本語は「えやおん！」でいいと思、日本
語でしゃべらんから、おぼえらんがほやくたり
うた。英語のラブリキ。はい(あ)まくまく
三郎山口きのうのカニコトをやるといひ

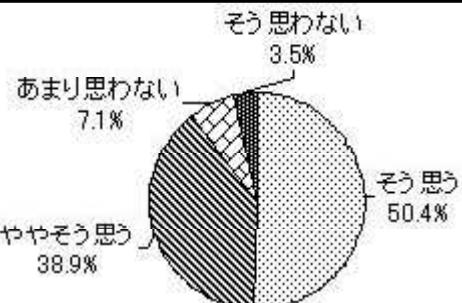
5		物	プリントの絵+教科書で 勉強の効率を上げてみたね!
教課便			
日記	今日の3時間目に		で、Unit 5 の Part 2

② 内容理解を深める活動についての意識調査

Q1:【口頭で導入したことにより
内容が理解しやすくなった】

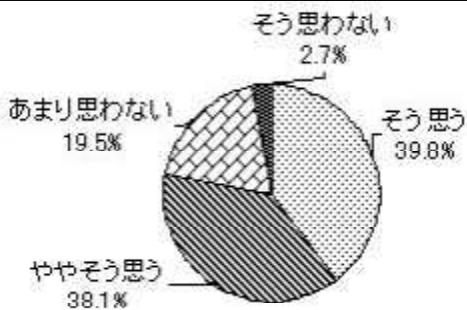


Q2:【T-F Question, Q&Aにより
内容が理解しやすくなった】

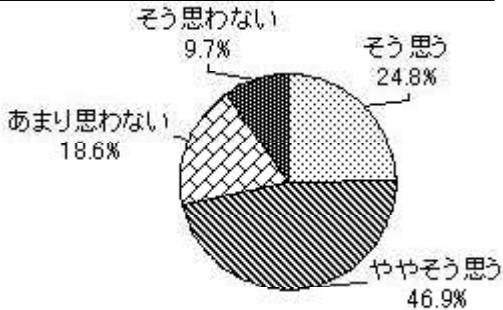


③ リプロダクションに至るまでの活動について

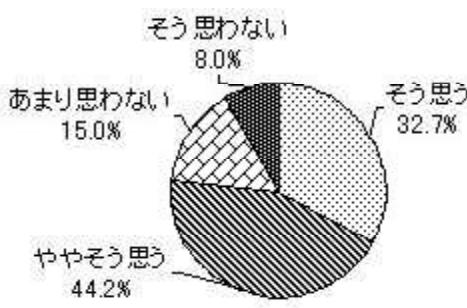
**Q3:【本文summaryの穴埋めをしたこと
は、リプロダクションに有効だった】**



**Q4:【read and look-up方式の読みは、
リプロダクションに有効だった】**



**Q5:【response readingは、
リプロダクションに有効だった】**



②について、意識調査の結果、以下の活動が有効であると言える。

教科書本文の導入では、教科書を一切使わず、教師の話す英文とpicture cardを用いる。新出語は話の概要や教師の言い換えから類推させる。

この導入方法をとれば、内容理解が深まると回答した生徒は、9割以上となった。

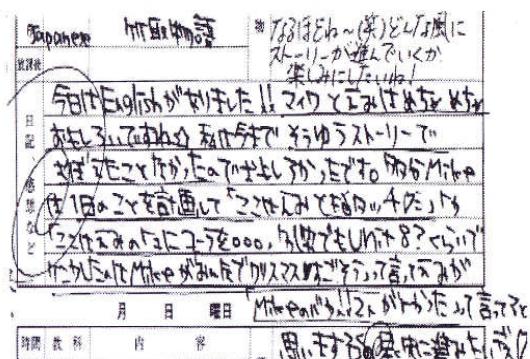
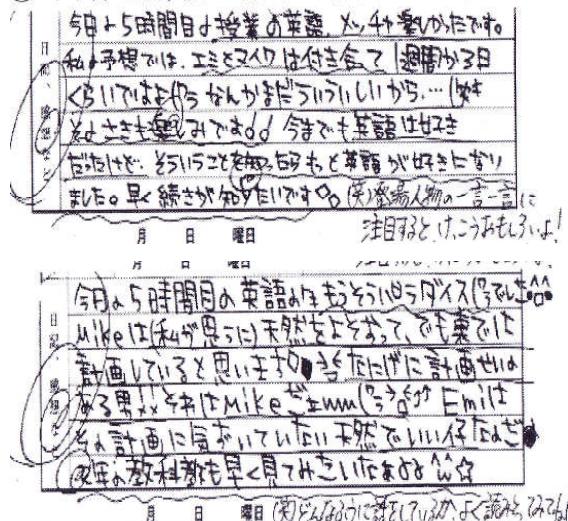
続いて、T or F や Q&A でさらに内容理解が深まると回答した生徒は9割近くであった。

③について、本文 summary の穴埋めは、7割弱

の生徒にとって有効であった。また、教科書 reading の方法についても、read and look-up 方式の読みをしてから response reading を行えば、リプロダクションしやすくなる生徒の人数が増えていることがわかる。しかし、②の質問項目に比べると有効であると答えた生徒の割合が2割近く減っていることから、内容理解後の repeat などの活動をより工夫していく必要があると考えられる。分析から、以下のことが言える。

- reproductionまでもっていくreading指導を行えば、頭の中に多くの生言語データを残せるが、開本してreadingを行う前に、本文理解(内容・英文)が深まっていることが重要である。

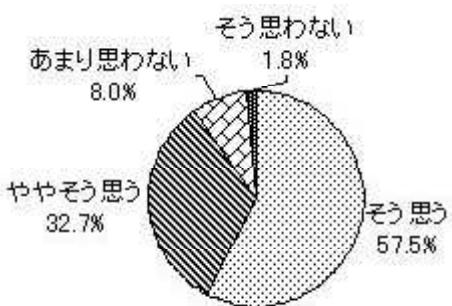
④ 内容理解後の活動に関する生徒の日記



内容理解後に、登場人物たちの続きのストーリーを考える活動を行ったところ、生徒たちは教科書に対して「早く先を読みたい」「2年の教科書も読みたい」などの感想をもつことができた。主体的に学ぶ生徒を育てていくためにも、このように生徒が意欲的に取り組める活動を設定していくことが、大変重要であると感じた。

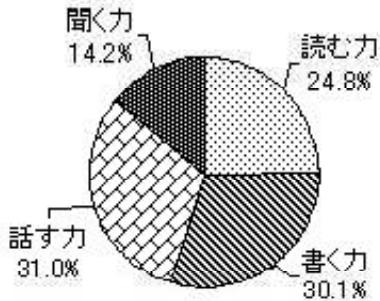
(2) 成果と今後の課題

Q6:【リプロダクションは、教科書の内容を身に付けるために有効であった】

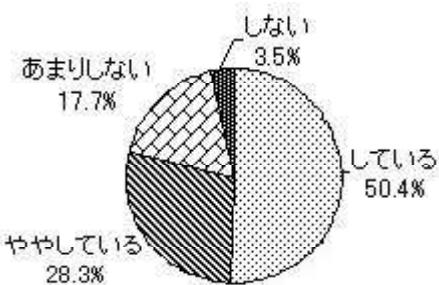


で、4技能をバランスよく育てることができ、発信型の活動（スピーチ、英作文）において、より生かされるのではないかと考えた。

Q7:【reproductionによって、どの力が伸びたと思うか】



Q8:【英作文や対話などの表現活動で、教科書の文を参考にしているか】



りを深め、人とのかかわりを大切にし、自他の良さを互いに認め合う生徒を育成できるよう、研究を深めていく必要があると感じた。

リプロダクションまでもっていく教科書指導を行い始めた当初、生徒からは「教科書の内容がわかりやすくなった。」「本文がスラスラ言える（書ける）ようになった。」などの意見が聞かれた。左図にあるように、生徒への意識調査を見ても、9割以上の生徒がリプロダクションを行うことで、教科書の内容を効果的に身に付けたと感じることができた。

また、本研究では教科書指導を工夫すること

Q 7 の図は、意識調査の中で生徒に質問したアンケートの結果である。4技能のうちいずれかのみに偏ることなく、ある程度のバランスがとれていることがわかる。特に、

「書く力」「話す力」などの【表現する能力】を育てるためには、リプロダクションまでもってくreading指導は有効である。

と、生徒たちが感じていることがわかった。

それは、Q 8 の図を見てもわかるとおり、多くの生徒にとって表現活動を行う時の拠り所として、教科書の文章を参考にすることが有効であるからである。

しかし一方で、発信型の活動を支える上で重要な、「good listener」の育成のため、「読む力」「聞く力」などの【理解する能力】をさらに伸ばしていく努力が必要であると感じた。

また、コミュニケーションを通して他者との相互理解を深めようとする意欲、態度面も重要なため、様々な対話活動などとのつなが